

## 田中 晶大 氏の学位審査結果の要旨

主査：岡本 祐之

副査：木梨 達雄、蔦 幸治

全身性エリテマトーデス（SLE）の病態に形質細胞様樹状細胞（pDC）からの IFN $\alpha$ の過剰産生が関与し、組織傷害部位から遊離された内因性分子である high-mobility group box-1 protein（HMGB1）はその IFN $\alpha$ 産生を促進することが知られている。申請者はこの IFN $\alpha$ と HMGB1 に着目し、SLE の疾患活動性に関与しているかを調べるために、SLE 疾患活動性指数（SLEDAI）で分類した活動性 SLE 患者 22 例と非活動性 SLE 患者 13 例について比較検討した。結果は、血清 HMGB1 および IFN $\alpha$ は活動性 SLE 患者で有意に高く、血清 HMGB1 値と IFN $\alpha$  値は正の相関関係を示した。とくに、IFN $\alpha$ は関節炎、発熱、および尿異常と関連性があり、HMGB1 は発熱および尿異常と関連性を示した。また、両者は IL-1 $\beta$ 、TNF $\alpha$ 、IL-4、IL-5 とも正の相関を示した。以上のことから、HMGB1 および IFN $\alpha$  は SLE の疾患活動性を反映し、特定の症状の存在を示唆する優れたバイオマーカーであることが示された。本研究は、IFN $\alpha$ と HMGB1 が SLE の重症度に関連する臨床的重要性を示すとともに、両因子が SLE の自己免疫プロセスを促進する重要な分子であることを支持するものであり、学位に値する内容である。